〔榮花物語二十五峯の月〕かんの殿○後一條后藤原威子のは、七月にあたり給て、御はらいとふくらかにくるしげにみえさせ給、○中略かくてこゝろのどかに玄ばしおはしまさせまほしう、大宮○上東門院藤原彰子もとの、御まへ○藤原道長も、おぼしめしたれど、あきの節分に、いととくいりぬべければとて、七月○萬壽二年三日うちにかへらせ給、

〔中右記〕保安元年七月四日壬寅、今夜秋節分也、

〔源氏物語五十東屋〕おのづからおぼすやうあらん、うしろめたうな思ひ給そ、ながつきはあすこそせちぶときゝしかといひなぐさむ、

〔中右記〕保安元年十月八日、今日冬節期也、

○按ズルニ、立春前日ノ節分ノ事ハ別ニ其篇アリ、

〔叢林集九〕彼岸會事　二月ハ、春分ヨリ三日下ノ日ヨリ七日、八月ハ、秋分ヨリ三日下ノ日ヨリ七日、コレヲ彼岸ト云、

○按ズルニ、彼岸ノ事ハ彼岸篇ニ詳ナリ、

〔書言字考節用集二時候〕社日（シャジツ）立春後五戊、爲春社、立秋後五戊、爲秋社、此日祭后土、爲民祈穀、見淮南子註、事林廣記、

〔月令廣義一歳令〕祀社立春後五戊日爲春社、立秋後五戊日爲秋社、凡春秋二社、有司祭社稷、民社從各鄉居人自立祭祀、隨俗、山東有司每歳清明仲冬各鄉僧道率衆里長每里賫稷飯一器詣城壇、有司官驗視祭社稷、祭畢以飯盡施養濟院、其名曰設穀、蓋祀社之遺意、

〔荆楚歳時記〕社日四鄰並結綜、會社牲醪、爲屋於樹下、先祭神、然後饗其胙、按、鄭氏云、百家共一社、今百家所社綜、即共立之社也、

〔東京夢華錄八〕秋社　八月秋社各以社糕社酒相賀送、貴戚宮院以猪羊肉腰子爛房肚肺、鴨餅瓜薑之屬、切作棊子片樣、滋味調和、鋪於飯上、謂之社飯、請客供養、人家婦女皆歸外家、晚歸、即外公姨舅皆以新葫蘆兒棗兒爲遺、俗云、宣良外甥、市學先生預斂諸生錢作社、會以致雇倩祗應白席歌唱